

兵庫県加古川市（加古川総合文化センター） 令和元年 7 月 16 日火曜日

複合施設の集客方法について

昭和 60 年 11 月 3 日、博物館、宇宙科学館の常設展示をはじめ、プラネタリウム館や様々な企画展が開催される美術ギャラリー、各種の創作活動が行われるコミュニティ施設などがある複合施設として開館。来年 35 周年を迎えるにあたり記念イベントを検討中。

敷地面積 30,070 m²（だいたい甲子園球場と同じ）、建物面積 11,650 m² 本部棟と東棟の 2 つに分かれている。

平成 30 年（2018 年）より指定管理者制度にて、新たに株式会社ケイミックスパブリックビジネスが運営を行っている。これまで 10 年間は別の事業者であった。

本部棟

博物館：加古川市周辺の歴史や昔の暮らしの道具を紹介。1600 年前の古墳の石室や埴輪など、貴重な実物資料の展示。

プラネタリウム：収容人数 84 名。小さな規模。投影機を使って、昼間でも星空を見ることが出来る施設。満天の星空や過去や未来、地球上の別の場所の星空を見ることが出来る。本年 4 月以前までは、子ども向け番組がメインであったが、本年より大人向け番組を月替わりで放映している。（本年から子ども 6 番組、大人 12 番組）大人の利用を開拓していく狙い。

宇宙科学館：宇宙をテーマに科学を学ぶ施設。天体の動き、宇宙の姿、望遠鏡の仕組み、天体観測の歴史、季節の星空などを楽しみながら学ぶことが出来る。この施設は投資がかかる。現在、設備について検討中。サイエンスショーなどを企画して活用を図っている。

美術ギャラリー：美術作品を展示し作品の鑑賞ができるほか、作品の発表会も開催される。先週まで加古川市の美術展を開催していた。1 日 500 人から 600 人の来館者があった。

コミュニティ施設：会議室、音楽練習室、和室、料理教室、美術創作室、工芸創作室、体験学習室がある。地域の様々な活動に活用されている。18 部屋ある。1 日 3 区分に分けて貸館。

レストラン：6 月 20 日に開店。太陽光と緑に囲まれ、食事やお茶を楽しむ人々の集いの場となっている。

東棟

中央図書館：加古川市には 4 つの図書館がある。絵本の時間やお話し会の開催がある。

教育研究所：市教育委員会職員が在籍。学校や地域の学習に使用する教育資料の管理や教員の研修を企画したりしている。

文化財調査研究センター：市内の文化財の保護・調査研究を行っている。展示品の管理、修復も行っている。

その他、敷地内には、芝生広場、3 つのモニュメントがある。

全体は年間 15 万人の利用がある。利用率が高い施設は会議室の一つ。収容人数は 8 名と施設の中で一番少ない収容人数で、手ごろな価格。書道教室、英語教室などの利用が多い。稼働率は 66.2%。利用率 92.4%。利用率の低い施設は調理教室。稼働率 4.7%利用率 11.6%。指定管理者自身が主催となって料理教室を企画して利用率を高める取り組みを行っている。

誘客の取組みは、市報への掲載とバス内への掲示、これらは無料。他、新聞、SNS 等でのイベント紹介、ロビーでのサイネージ使用。特に市報の効果がある。年配の方が良く見るため。主催のカルチャーの申し込みは市報と新聞の効果がある。

宇宙科学館と博物館について指定管理者となった4月1日から無料化した。宇宙科学館は月310人であった利用が6月は800人となり、7月15日時点でこの月は500人がすでに利用している。月を追うごとに利用者が増加傾向にある。博物館も同様。以前は340名程度であったものが、6月で1180名、7月15日時点で650名。無料化の効果は大きい状況。無料化のデメリットは収入減。前年の収入は宇宙科学館約40万円弱、博物館約60万円と100万円分を失うことになるが、月々の利用者が増加になることを考えると、文化センターという意味合いから、多くの方に使っていただき、見ていただき、様々なことに興味を持っていただくことの価値があると考えます。

施設内の連携・交流では、協働防災訓練、事業の共催。図書館主催のお話し会を本館での開催などによりシナジーを高めていきたい。この4か月で施設内の心が触れあってきたと感じている。本館と東館一体で空調、電気管理、清掃、警備を本館側の指定管理者が行っている。

指定管理者について

利用者を増やすことが一番と考えて、無料化をまず実施していくこととした。

全国で約60か所の指定管理の受託をしている。その主なものがホール、公共文化施設運営加古川市民会館での実績もある。そこでアドバイスを受けながら反映している。

宇宙科学館、博物館については実績がないが、市民会館の実績をもってチャレンジしている。

施設の老朽化と宇宙科学館の設備の陳腐化、魅力の低下を課題としている。そのなかで、現状の維持管理をしながら、今後、ニーズなどに合わせて改修などの提案も検討中。

所感

新たな指定管理者の取組みが既に効果として表れている状況をお聞きした。このような文化施設という意味をしっかりと受け止め運営されていた。無料化したことで子どもの方に来館した方が子どもを連れて来館もあり、この施設全体の魅力づくりに取り組んでいるとのことであった。一つの施設のみでなく全体の魅力づくりに挑戦している企業のスタイルも感じた。地元新聞にゴールデンウィーク直前に出した広告の効果が大きかったとのことであったが、このような企業との取組み誘客について企業との連携にも力を入れていた。広い施設の中での芝生化、レストランメニューも検討するなど個々の魅力を高める誘客への取組みがされていた。